

経済情報：2024年10-12月期の 実質GDP成長率（1次速報値）

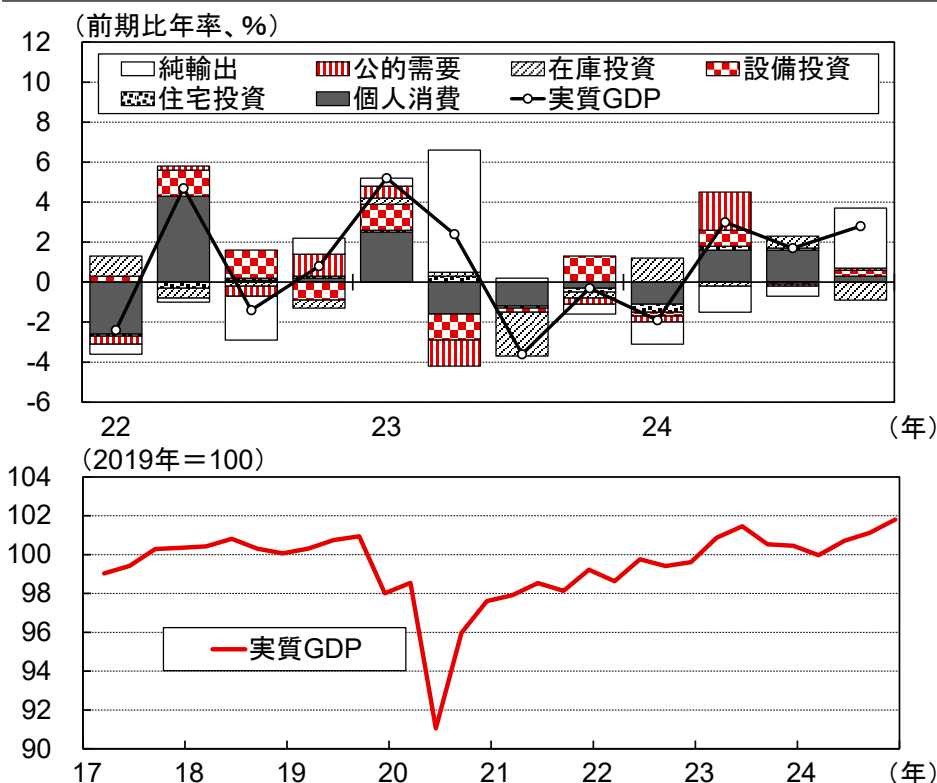
2025年2月17日

三菱UFJ銀行 経営企画部 経済調査室

1. 要旨

- 2024年10-12月期の実質GDP成長率(1次速報値)は前期比年率+2.8%と3四半期連続のプラス成長。輸入減少による押し上げが大きいものの、民間需要項目も在庫投資を除き全て増加。
- 食料を中心とした物価上昇が消費者マインドを悪化させているものの、今年の春闘でも高い賃上げの実現が見込まれ、実質賃金の改善傾向が続くことで、先行きも緩やかな景気回復が続くと予想。

実質GDPと最終需要の推移



(資料)内閣府統計より三菱UFJ銀行経済調査室作成

四半期別実質GDPの推移(計数)

(前期比年率、%)

	2024年 4-6月期	2024年 7-9月期	2024年10-12月期(1次速報値)	
				(寄与度)
実質GDP	3.0	1.7	2.8	—
民間需要	3.2	3.0	▲ 0.4	(▲ 0.3)
個人消費	3.0	3.0	0.5	(0.3)
住宅投資	5.7	2.0	0.4	(0.0)
設備投資	4.4	▲ 0.3	1.9	(0.3)
在庫投資	(▲ 0.2)	(0.6)	—	(▲ 0.9)
公的需要	7.4	▲ 0.3	0.2	(0.1)
政府消費	3.8	0.5	1.1	(0.2)
公共投資	25.0	▲ 4.4	▲ 1.3	(▲ 0.1)
純輸出	(▲ 1.3)	(▲ 0.5)	—	(3.0)
輸出	6.8	6.1	4.3	(1.0)
輸入	12.6	8.1	▲ 8.0	(2.0)
GDPデフレーター(前期比)	1.4	0.3	0.6	—
名目GDP	8.9	3.0	5.1	—

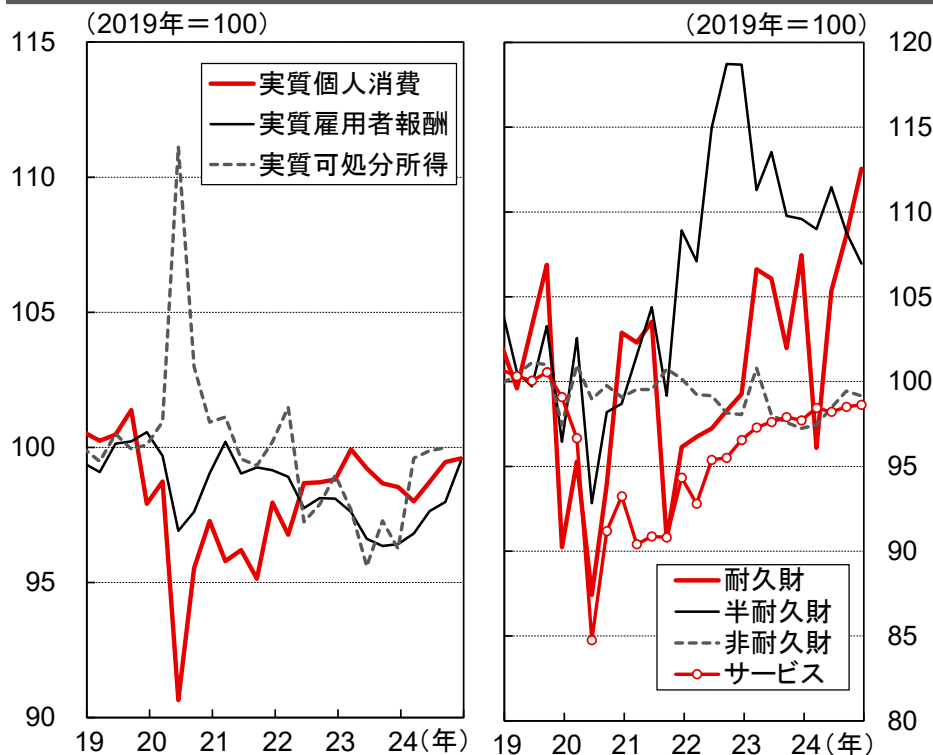
(注)カッコ内は、実質GDPの前期比年率伸び率に対する寄与度。

(資料)内閣府統計より三菱UFJ銀行経済調査室作成

2. 内需項目

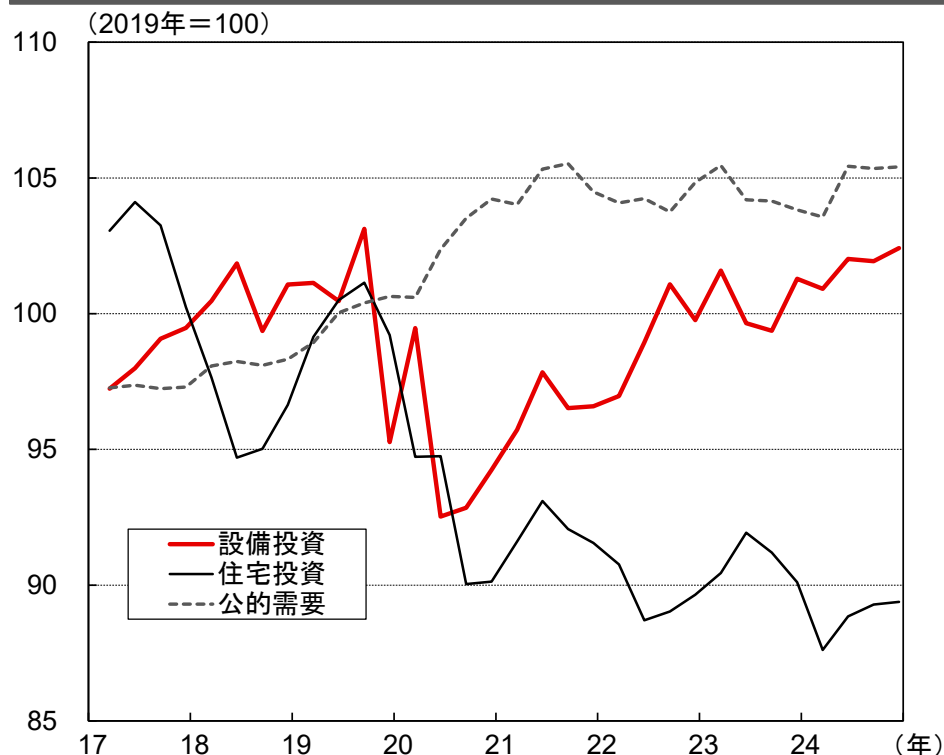
- 個人消費は前期比年率+0.5%と3四半期連続で増加。冬の賞与が前年比で大きく増加し、実質所得の改善が続いていることが個人消費を下支えしているとみられる。
- 設備投資は同+1.9%と、2四半期ぶりに増加。生成AI関連の半導体需要が堅調であり、半導体関連投資が増加しているとみられる。
- 住宅投資は同+0.4%と、3四半期連続で増加。
- 公的需要は同+0.2%と、2四半期ぶりに増加。

実質個人消費・所得、財・サービス別実質個人消費の推移



(資料)内閣府統計より三菱UFJ銀行経済調査室作成

その他の内需項目の推移

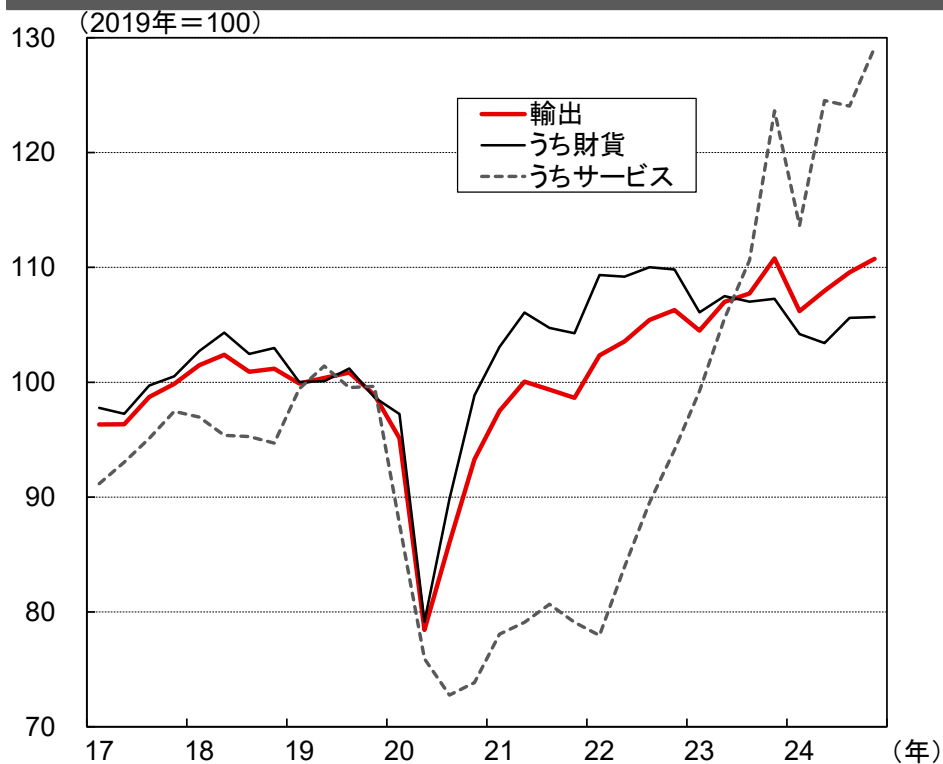


(資料)内閣府統計より三菱UFJ銀行経済調査室作成

3. 外需項目

- 輸出は前期比年率+4.3%と3四半期連続で増加。インバウンドや知的財産が含まれるサービス輸出の増加が寄与。
- 輸入は同▲8.0%と、3四半期ぶりに減少。
- 結果として、純輸出(輸出－輸入)の寄与度は同+3.0%ポイントと5四半期ぶりにプラス。

輸出(財・サービス別)の推移



(資料)内閣府統計より三菱UFJ銀行経済調査室作成

輸入(財・サービス別)の推移



(資料)内閣府統計より三菱UFJ銀行経済調査室作成

当資料は情報提供のみを目的として作成されたものであり、何らかの行動を勧誘するものではありません。
ご利用に関しては、すべてお客様御自身でご判断下さいますよう、宜しくお願い申し上げます。当資料は信頼できる
と思われる情報に基づいて作成されていますが、当行はその正確性を保証するものではありません。
内容は予告なしに変更することがありますので、予めご了承下さい。また、当資料は著作物であり、著作権法により
保護されております。全文または一部を転載する場合は出所を明記して下さい。

会社名：株式会社三菱UFJ銀行 経済調査室
〒100-8388 東京都千代田区丸の内1-4-5 三菱UFJ信託銀行本店ビル

照会先：矢吹 彩 e-mail: sai_yabuki@mufg.jp